



今日のトピック 水準調整道半ばの米国株式市場 もう一段の調整の可能性も視野に

ポイント1

年初来安値を更新

金利上昇に伴う株価水準の修正

- 米国株式市場は大幅に調整しています。米国の利上げ予想が上方修正された他、英国の減税を中心とする経済対策の影響を受けて、米長期金利が上昇したことが背景です。10年国債利回りは28日に一時4%台に乗せました。S&P500種指数、NYダウは9月27日に年初来安値を更新しました。S&P500種指数は9月27日の安値更新により、年初からの下落率は▲23.5%となりました。

ポイント2

金利上昇に追いつけない水準調整

水準調整は道半ばの感が拭えない

- 株価の水準調整は進んでいるものの、長期金利や利益との比較からは道半ばの感が拭えません。
- 株式益利回り（予想株価収益率（PER）の逆数）から長期金利を差し引いて求めるイールド・スプレッドは、拡大すれば株価が割安と判断される指標です。イールド・スプレッドは、長期金利の急速かつ大幅な上昇に対して株価水準の調整が不十分であるため、拡大しておらず、割安圏に向かう気配がまだ出ていません。
- 一方、足元の予想PERは15.4倍と2002年1月以降約20年間の平均値と同水準に位置しています。株価は大きく調整していますが、業績見通しの下方修正も続いており、今のところ割安感の台頭とまでは言えない水準です。

今後の展開

もう一段の調整も視野に

- 米国株式市場は、引き続き長期金利と業績を意識した展開が続く見通しです。米国株式市場に割安感が台頭するための水準調整はまだ道半ばと思われ、もう一段の調整も視野に入れざるを得ないと考えられます。

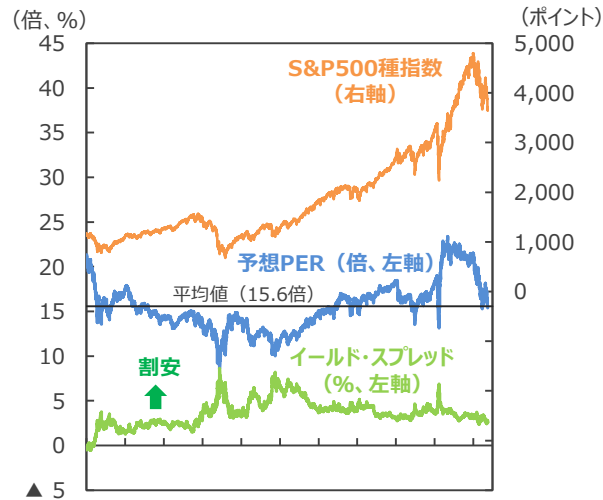
(ポイント)【S&P500種指数、同EPS、長期金利】(%)



(注) データは2021年1月4日～2022年9月28日。予想EPSは9月27日まで。長期金利は10年国債利回り。S&P500種指数、同予想EPS（12カ月先予想）は2021年1月4日＝100として指数化。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【S&P500種指数と予想PER、イールド・スプレッド】



(注) データは2002年1月2日～2022年9月27日。S&P500種指数は9月28日まで。予想PERは12カ月先ベース。予想PERの平均値は2002年1月2日～2022年8月31日で計算。イールド・スプレッドは株式益利回り（予想PERの逆数）－10年国債利回り。拡大すれば割安と判断される。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも チェック!

2022年9月2日 FRBに叩かれた米国株式市場

2022年9月1日 ジャクソンホール通過で考える今後のポートフォリオ戦略

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。